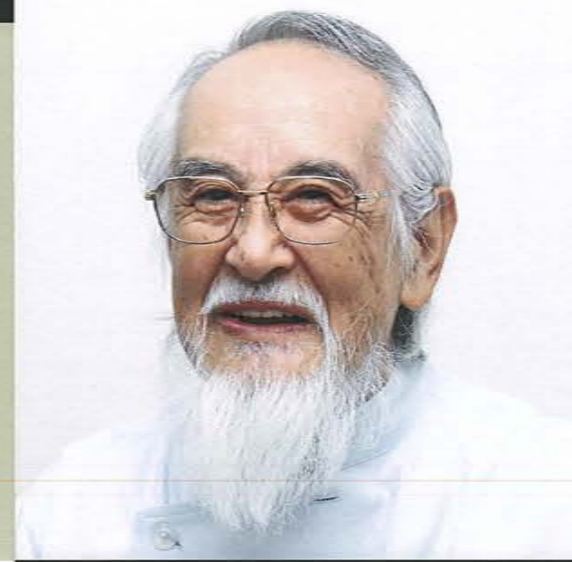


現在、新築中の『宮崎中央眼科病院』が、めざすのはさらなる最先端医療と地域貢献！



太陽放談
宮崎を元気にするインタビュー



Profile

1934年生まれ。「医療法人 慶明会」理事長、医学博士。久留米大学医学部卒業。1969年、現地に「土屋眼科病院」を開院し、院長に就任。以来、地域に根ざした眼科施設として、宮崎の眼科医療をけん引。1979年、増築を機に名称を「宮崎中央眼科病院」に変更。また、「地域に眼科があれば」という各地のニーズに応え、分院「生目眼科クリニック」、「くにとみ眼科クリニック」、「おおよど眼科クリニック」、「すみよし中央眼科」を立ち上げる。尚、「宮崎中央眼科病院」の病院訓は、職員全員で考えた「信頼」、「真心」。趣味は乗馬旅行。

■医療法人 慶明会 宮崎中央眼科病院
宮崎市清水3-6-21 TEL 0985-24-8661
<http://www.keimei.or.jp/>

太陽放談 第129回ゲスト

医療法人 慶明会
理事長

土屋 利紀さん

『生目眼科クリニック』、『くにとみ眼科クリニック』、『おおよど眼科クリニック』、『すみよし中央眼科』を司り、長年宮崎の眼科医療をリードしてきた『宮崎中央眼科病院』。現在、さらなる最先端医療及び、利用者によさしい施設をめざし、新築工事中的の同院を運営する『医療法人慶明会』の理事長 土屋利紀さんにお話をうかがいました。

貴院は、地域に深く根ざした長年の医療活動で、宮崎の眼科医療に多大な貢献をされていますが、改めてその詳細についてお聞かせください。

『宮崎中央眼科病院』では、眼科の一般診療や眼科全般における手術などを行っております。

一方で、夜間救急の受け入れをはじめ、眼科健診や3歳児検診、子供の視力、網膜色素変性症の会との立ち上げにも力を入れてまいりました。それらは、少しでも地域貢献できればという想い、使命感に基づき、行つてまいりました。夜間救急は年間700件の急患を受け入れてきました。

眼科健診については、宮崎県内の官公庁や企業様、住民のみなさまの元に訪問し、緑内障の早期発見、早期予防を訴えてまいりました。現在でも約6000名を超える方に眼科健診を受けていただいております。緑内障だけではなく、糖尿病網膜症をはじめ多くの眼底疾患も発見されており、眼科の疾患には、痛みがない病気が多いため、自覚症状が現れたときには、かなり病状が進行しているというケースがあります。緑内障、糖尿病網膜症はその最たるものです。また子供の斜視・弱視などの疾患に

対しては、親御さんと医師・視能訓練士が一体となり、プログラムを組み治療を進めております。

現在、病院を新築されていますが、新病院の概要を教えてください。

当院は、眼科としては全国で3番目に日本医療機能評価機構の認定病院となっておりますが、これは第3者が地域に根ざし、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、常日頃努力している病院であると認定したものです。しかし、私どもは患者様からの評価がなにより大事だと思っております。

新築中の病院は、来年12月竣工予定ですが、将来を見据え患者様のニーズに沿った病院づくりを志しています。職員総意の元、アイデアを出し合いながら図面を起こしました。

病院のフロアは、1階に外来、2階に管理棟、3階に病棟、4階に手術室といった構成にしております。1階の病院玄関口については、車の乗降がしやすいようパリアフリーにしたつくりで設計し、20台前後の駐車スペースを玄関先に設け、トータルで100台を超える駐車場を確保します。

そして、外来スペースは患者様の動線を第一に考え、1階部分に集約しております。術といった内眼手術だけでなく、斜視手術、翼状片手術、眼瞼下垂手術などの外眼手術、レーザー治療など数多くの手術を行っております。経験豊富な内外の医師が手術しておりますので、安心して手術をお受けください。

現在、宮崎中央眼科が新築中のため、騒音や振動がこれから約1年半にわたって続き、患者様をはじめ近隣の住民のみならずには大変ご迷惑をおかけします。どうぞ、ご容赦賜りたいと存じます。

人間の情報源は、視覚からの情報が80%以上と言われております。これからもみなさま方が生涯にわたって視力が保持できるお手伝いを、また常に最先端の眼科医療をめざし、地域・宮崎に貢献してまいりたいと考えております。



車の乗降がしやすいように、玄関先に20台前後の駐車スペースを設けたり、病室をほぼ全室個室にするなど、利用者によさしい心配りが随所に見られる新病院の完成予想図(2012年末完成予定)。

す。結果職員の動線も良くなり、連携がスムーズにいくことでキメ細かな医療サービスができるものと思っております。3階病棟の病室は、全室ほぼ個室のつ

くりとし、プライバシーが尊重され、個々がくつろげる空間となっております。また、病室を取り囲むようにナースステーションを中心に置き、ナースコールにも迅速に対応できるよう配慮しております。ソフト面についてお話しすると、病院の新築を機に、職員の意識の改革、さらなる向上を図っていきたくと考えています。疾患だけにとらわれずに、社会・経済・心理的側面などあらゆる観点から、患者様をサポートできる「全人的医療」を目標に、職員一丸となって、それが実践できるような病院にしたいと考えております。その中でも、とくに力を入れていきたいと考えているのが、心のケアのできる病院づくりです。ドクターは無論のこと、サポートグループなど体制づくり

も踏まえた上で、患者さんの心の悩みをよく聞き、常に患者さんとともに歩いていけるような病院をめざしていきたい。そう、強く願っています。

新病院完成までは、どのようななかた

現在地にて、外来診療を継続しております。病棟と手術室は国富町の『けいめい記念病院』に一旦移し、当院の医師がそちらで手術を行っております。患者様には今までどおり安心して、宮崎中央眼科を受診していただきたいと思っております。当院では、眼科医師が7名おり、その他外部から6名の専門医師による特別診察も行っております。手術は白内障手術、緑内障手術、角膜移植術、網膜硝子体手

※本取材は2011年11月29日に実施したものです